

自然を語る会

講演者に自然に関わる話題を提供していただき、参加の皆さんと意見交換を行う場です。まわりの方にお声をおかけください。今年度は下記の3回行います。

【要領】

日時：8月8日（火）、9月12日（火）、10月10日（火）（毎回：午後6時～7時30分）

会場：札幌市立大学サテライトキャンパス（アスティ 45 12階、札幌市中央区北4条西5丁目）

定員：50名（先着順）

参加費：1,000円（会員は500円）

詳細は協会ホームページおよび会報次号でお知らせいたします。

第1回 8月8日（火）

講師：先崎理之氏（北海道大学大学院地球環境科学研究院 准教授）

演題：北海道の鳥類の昔と今、そして未来

講師紹介：2019年より北海道大学大学院地球環境科学研究院 助教。2023年より准教授。主に鳥類を対象動物として感覚生態学や保全生態学の研究に取り組む。現在は自動車騒音による鳥類への悪影響を緩和するための手法に関する研究を展開しているほか、北海道の鳥類（特に渡り鳥）のまだ知られていない生態や生息状況を明らかにするべくフィールドワークに励んでいる。

講演要旨：北海道ではこれまで470種類以上の鳥類の記録があります。これは日本産鳥類の80%以上に匹敵します。これらの中には、国内での分布や繁殖地・越冬地がほとんど北海道に限定される種類も数多く含まれ、多くのバーダーがこれらを目当てに北海道を訪れています。このような豊富な鳥類相を誇る北海道ですが、国内外の他地域と同様に、過去数十年の間でも減ってしまった種や、逆によく見られるようになった種があり、その鳥類相には確実な変化が見られます。減少した種としては、シマアオジやアカモズ、エトピリカ、ウミガラスなどが挙げられ、逆に近年増加した種としてはガン類やハクチョウ類、オジロワシやカワウなどが挙げられます。また、レンカク、ベニバト、オウチュウ、ハイイロオウチュウ、ミヤマビタキといった本来は亜熱帯～熱帯に分布する鳥類が新たに北海道でも記録され始めています。本講演では北海道の鳥の昔と今、そして将来についてお話します。

第2回 9月12日（火）

講師：在田一則氏（協会会長）

演題：自然保護とボールパーク（仮題）

第3回 10月10日（火）

講師：興野昌樹氏（協会常務理事）

演題：「外来種は悪くない」論の主張を真剣に考えてみる（仮題）

自然保護大学

日時：11月11日（土）13時～18時（3人の講師がそれぞれ90分ほど講演）

会場：札幌市立大学サテライトキャンパス（アスティ 45 12階、札幌市中央区北4条西5丁目）

テーマ：日高山脈の自然の魅力と課題（仮題）

講師（3名）：未定

定員：50名（先着順）

参加費：3,000円（会員 1,500円）